

令和4年度第1回八戸市総合教育会議

令和4年11月30日(水) 午前9時
八戸市美術館

次 第

1. 開 会
2. 概要説明
3. 八戸市美術館を活用した授業の視察
 - 旭ヶ丘小学校6年生：図画工作
 - テーマ 思い出を美術館に…
4. 意見交換
5. 閉 会

令和4年度 第1回八戸市総合教育会議出席者名簿

氏 名	職
◎熊谷 雄一 <small>くまがい ゆういち</small>	市長
伊藤 博章 <small>いとう ひろあき</small>	教育委員会教育長
油川 育子 <small>あぶらかわ いくこ</small>	教育委員会委員
小瀬川 喜井 <small>こせがわ きい</small>	教育委員会委員
福井 武久 <small>ふくい たけひさ</small>	教育委員会委員
西山 康巳 <small>にしやま やすみ</small>	教育委員会委員

◎議長

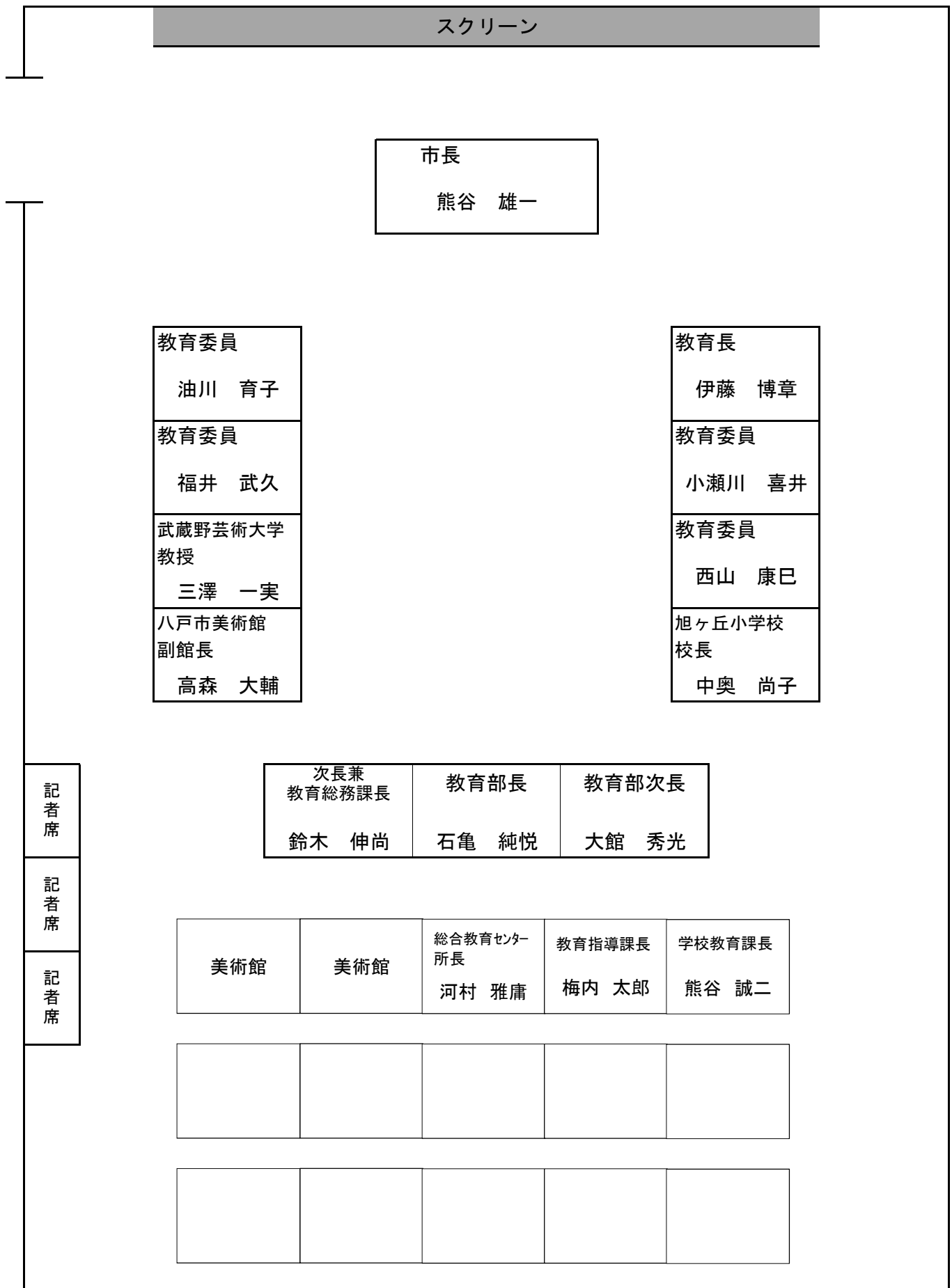
旭ヶ丘小学校	職
中奥 尚子 <small>なかおく なおこ</small>	校長

八戸市美術館	職
三澤 一実 <small>みさわ かずみ</small>	武蔵野美術大学 教授
高森 大輔 <small>たかもり だいすけ</small>	副館長

事務局	
石亀 純悦 <small>いしがめ じゅんいち</small>	教育委員会 教育部長
鈴木 伸尚 <small>すずき のぶひさ</small>	教育委員会 教育部次長兼教育総務課長
大館 秀光 <small>おおだて ひでみつ</small>	教育委員会 教育部次長
熊谷 誠二 <small>くまがい せいじ</small>	教育委員会 学校教育課長
梅内 太郎 <small>うめない たろう</small>	教育委員会 教育指導課長
河村 雅庸 <small>かわむら まきのぶ</small>	教育委員会 総合教育センター所長

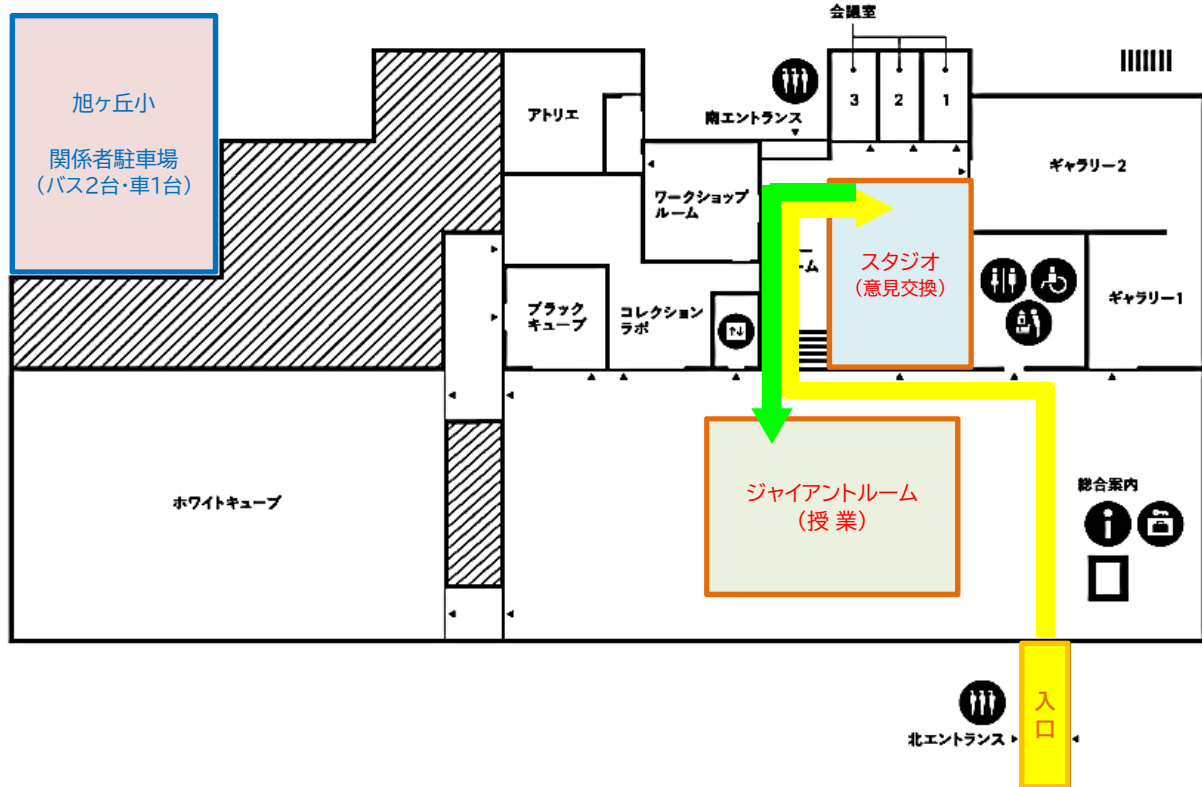
※他に関係G L等が出席

総合教育会議席図（スタジオ）



八戸市美術館
館内図

1F



八戸市美術館について

八戸市美術館副館長 高森大輔



八戸市美術館
Hachinohe Art Museum

八戸市美術館は2021年11月3日に、これまでにない新しいタイプの「美術館」として、生まれ変わってオープンしました！

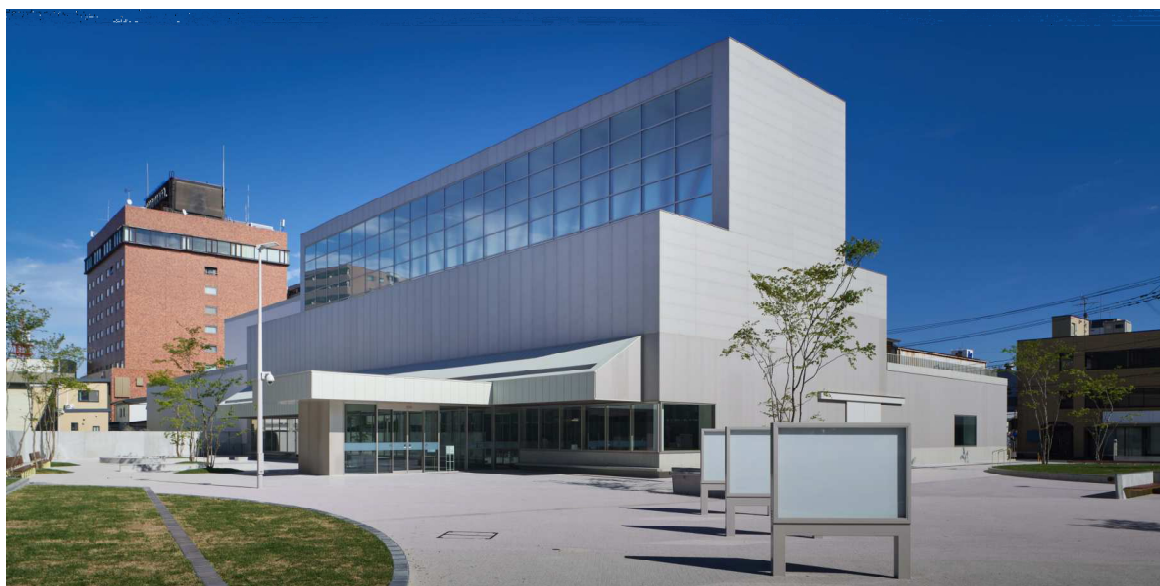


写真 阿野太一

八戸市美術館の主な収蔵作品



- <上段左から>
- ・渡辺貞一《極光川（モヨロ記）》（1970）
 - ・豊島弘尚《獅子舞A》（1968）
 - ・佐々木泰南《深雪》（1974）
 - ・八戸市立湊中学校養護学級生徒《虹の上をとぶ船総集編Ⅱ 星空をペガサスと牛が飛んでいく》（1976）
- <下段左から>
- ・橋本雪蕉《名花十二客図》六曲一双屏風（左隻）（1876）
 - ・船越保武《聖クララ》（1981）

八戸市美術館のビジョン



種を蒔き、人を育み、100年後の八戸を創造する美術館
～出会いと学びのアートファーム～

従来の「もの」としての美術品展示が中心だった美術館とは異なり

「ひと」が活動する空間を大きく確保することで

「もの」や「こと」を生み出す新しいかたちの美術館として
新たな文化創造と八戸市全体の活性化を図ることを目指します

新美術館の建物の特徴

■ ジャイアントルーム

エントランスとしての役割だけではなく
人々が自由に集い、学び、活動する場
としての役割も担う巨大空間



■ 専門性の高い個室群

より深く学び、さらに違う専門性と偶然
出会える、それぞれに部屋の個性がある
個室群をジャイアントルームの周囲に配置

ジャイアントルームの特徴



- ・ 美術館の入館は無料（企画展を見る場合のみ有料）
- ・ ジャイアントルームのフリースペースは誰でも自由に使える（Wi-Fi、電源も使える）
- ・ ジャイアントルームやテラスは持ち込み飲食可能

ジャイアントルーム



ジャイアントルーム



八戸工業大学まちなか学園祭



社会教育委員の会議（市の附属機関）

美術館を自由に使う人の姿も



ジャイアントルームで書をする人たち



アートファーマーのティーパーティー

美術館広場・テラス



マエニワに出店したキッチンカー



2階のテラス



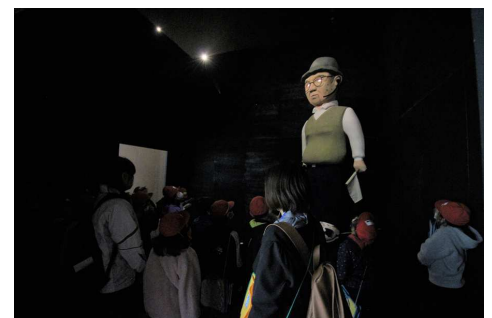
八戸市美術館は、誰もが気軽にアートに触れられる機会を提供する「**展覧会**」と市民とともにアートを介して出会いや学びを誘発する様々な「**プロジェクト**」を展開します



展覧会の例（ホワイトキューブ）



プロジェクトの例（ジャイアントルーム）



展覧会 「持続するモノガタリ」



展覧会 まるごと馬場のぼる展



2022年7月2日(土) ~
 8月29日(月)

絵本「11ぴきのねこ」シリーズで知られる、
 三戸町出身の漫画家・馬場のぼる。絵本や漫
 画の仕事、スケッチ、交友関係、タブローや
 立体作品などを紹介。青少年時代の作品や資
 料、自伝漫画を通してルーツをたどる。

八戸市美術館
 Hachinohe Art Museum

展覧会 佐藤時啓ー八戸マジックランタンー



2022年10月29日～
2023年1月9日

写真家・佐藤時啓が、2016年から八戸に通い制作した作品を展示。風景と祭りなどの文化を掛け合わせた作品。マジック・ランタン＝幻灯機。ドローンなど最新の技術を駆使した作品も。近隣施設との連携企画。

展覧会 美しいHUG！

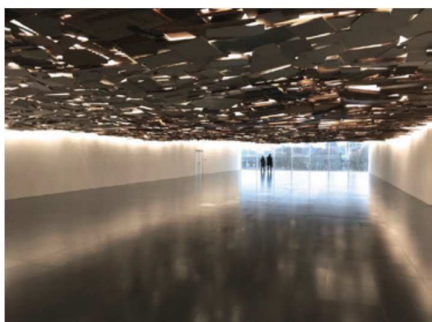


2023年4月29日～
2023年8月28日

ゲストキュレーターを招聘し、6人のアーティストが参加する「展覧会」と「プロジェクト」で構成する企画を開催します。「美術館での展覧会」と「地域でのアートプロジェクト」が有機的に交わるあり方や、さまざまな立場の人が作品を通じてハグをするように出会う場を生み出します。

○ゲストキュレーター：森 司
(アーツカウンシル東京事業部事業調整課長)

○参加アーティスト
青木野枝、井川丹、川俣正、きむらとしろうじん、
黒川岳、タノタイガ



美術館広場



令和5年春～夏に開催予定の展覧会に先駆けて、美術館広場に、石にあいた穴に鑑賞者が頭を入れ、石に集まる音を聞く彫刻作品を設置しました。



黒川岳 《listening to stone》



ほろ酔い鑑賞「ほろ8」



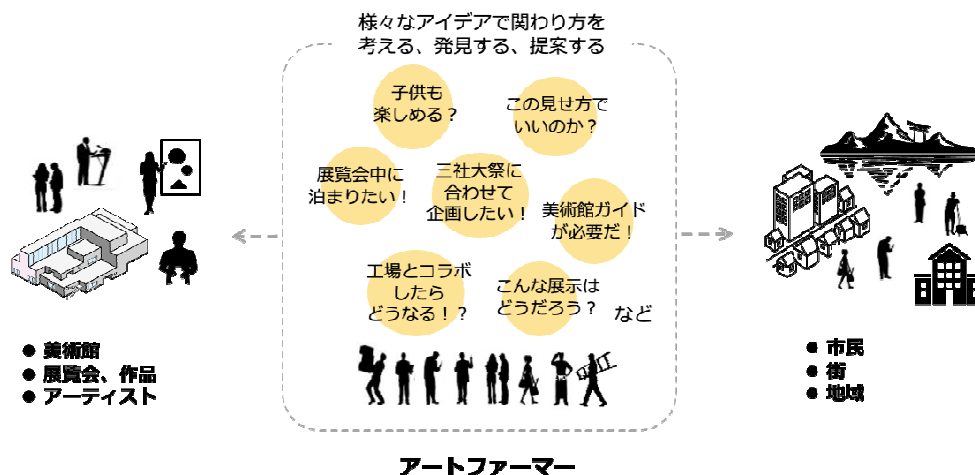
美術館の収蔵作品を独自の切り口で紹介する展覧会シリーズ「コレクションラボ」において、八戸焼のお猪口で地酒をいただいた後に作品を鑑賞する企画を実施した。



アートファーマープロジェクト



美術館の企画や運営について、美術館のスタッフと一緒に考え実践する市民スタッフを「アートファーマー」と呼びます。
アートファーマーは、美術館での学びを活かして、アーティストとの創作活動や来館者へのガイドなど、美術館と人、人と人をつなぐ様々な活動を展開しています。



アートファーマープロジェクト 建築ツアーガイド



八戸市美術館の建築の特徴や魅力をみんなで一緒に学び、ガイド役が画一的な内容で一方的に来館者に語るのではなく、ツアーコースも紹介するポイントもそれぞれ異なり、ガイド役と来館者との会話が弾む、新しい美術館ならではの建築ツアーを実施。

アートファーマープロジェクト きむらとしろうじんじん野点 i n 八戸



きむらとしろうじんじん野点 in 八戸 プロジェクトスタッフ募集!

おさんば会で野点の場所を探します

2023年春夏開催の展覧会「美しいHUG」に先がけ、2022年10月1日(土)に、アーティストのきむらとしろうじんじんさんと野点を開催するプロジェクトを実施します。じんじんさんと一緒に八戸をおさんばして、野点(のて)によさそうな場所を一緒に探しましょう。チームメンバー求む!



2022年6月~10月

陶芸家・美術家の「きむらとしろうじんじん」さんと一緒に”野点”を開催するプロジェクト。市民と一緒に野点に良さそうな場所を探し、「その土地の・その日の・そのときの風景の中で」参加者みなでお茶を楽しむ、陶芸お抹茶屋台・移動式カフェ・旅回りのお茶会です。

じんじんさんとの野点を一緒に運営していただけるプロジェクトスタッフを募集して実施しました。

学校連携プロジェクト



小・中・高校の教員、美術館の学芸員、専門家が一体となって「学校連携プロジェクトチーム」をつくり、子どもたちの力を伸ばして自ら新しい価値をつくり出せる人を育むために、美術館を活動拠点に、学校の授業で役立つツールやプログラムづくりのほか、学校教育だけでは実現できない取組を行っています。

○プロジェクトチームメンバーの構成

- ・ 小学校 9名
- ・ 中学校 5名
- ・ 高等学校 4名
- ・ 専門家 1名
- ・ 美術館 4名
- ・ 合計 23名





三澤一実先生

1963年長野県生まれ。東京藝術大学大学院修了。

2008年から現在まで武蔵野美術大学教授。

専門は美術教育・鑑賞教育。

現在、武蔵野美術大学の学生が各地の学校を訪れ、

現役の先生や小中学校を巻き込んで鑑賞の授業や

「黒板ジャック」、造形ワークショップを展開する

「旅するムサビプロジェクト」（2017年グッドデザイン
賞受賞）を手がけている。

2017年から八戸市新美術館運営検討委員を務める。

学習指導要領作成協力者（2008小学校図工、2018中学校
美術）ほか。

学校連携プロジェクトチームの活動



カウントアップイベントでの展示

大きな絵
プロジェクト

（参加校）
八戸東高校
第一中学校
東中学校
白山台中学校
城北小学校
西白山台小学校



学校連携プロジェクトチームの活動



開館プレイベントでの展示（R4.10.1-10.3）



作品制作後の鑑賞会（R4.8.10）

小中高同じ
テーマで
作品づくり」

（参加校）
八戸北高校
三条中学校
第二中学校
東中学校
多賀小学校
豊崎小学校

学校連携プロジェクトチームの活動



美術館新聞部の活動の様子

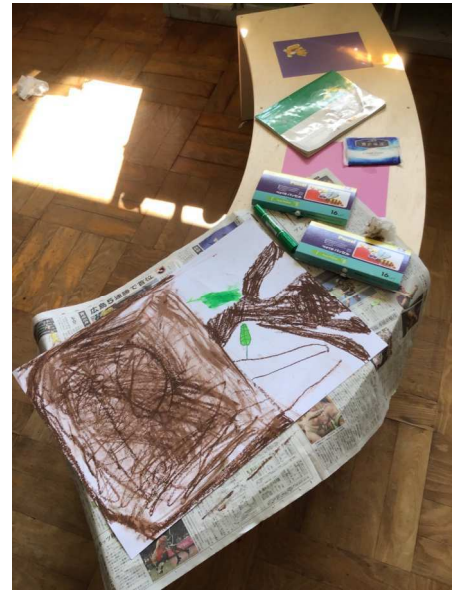
美術館新聞「とれたて！すまぁ〜と！」

美術館新聞部
（参加校）
八戸工業高校
江南小学校

学校連携プロジェクトチームの活動



学校連携プロジェクトチーム作戦会議＆茶話会



展覧会で使用したいすの再利用

学校連携プロジェクトチームの活動



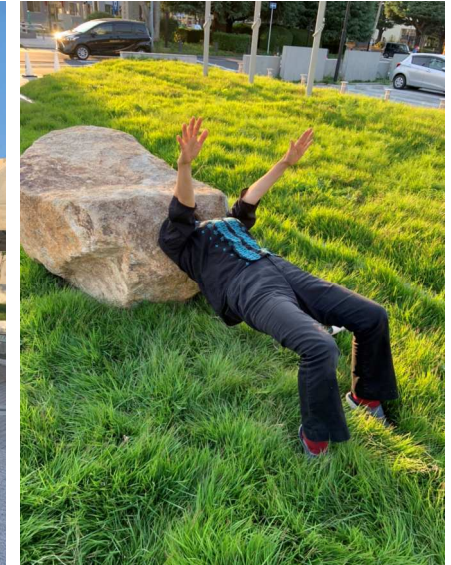
小中高合同鑑賞会のようす (R4.8.10)



学校連携プロジェクトチームの活動



きむらとしろうじんじん野点（R4.10.1）



プロジェクトチーム全体会議
（R4.9.29）

社会科見学

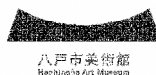


展示室での模写（長者小学校）



弁当を食べる子どもたち（新郷小学校）

中心街の回遊性を高める取組



AOMORI GOKAN (5 館連携プロジェクト)



青森公立大学国際
芸術センター青森
(2001)
設計：
安藤忠雄



十和田市
現代美術館
(2008)
設計：
西沢立衛



青森県立
美術館
(2006)
設計：青木淳



弘前
れんか倉庫
美術館
(2020)
設計：田根剛

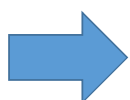
八戸市美術館では、展覧会を準備したり、企画の打合せを行ったり、アーティストと市民と一緒に創作活動をするなどの「**途中経過**」や「**活動の痕跡**」も公開し、訪れた方が様々な活動に参加したくなる仕組みを設けています



八戸市美術館は・・・

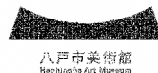
- ・ワイワイガヤガヤしてもいい
- ・美術活動以外のことをしてもいい
- ・展覧会を開催していないときもある

（そんな日も人が活動している姿が見られる）



従来の美術館のイメージとは異なる

八戸市美術館が「グッドデザイン・ベスト100」を受賞



八戸市美術館は、2022年度グッドデザイン賞を受賞しました。応募総数5,715件、受賞1,560件の中から、さらに「グッドデザインベスト100」に選出されました。

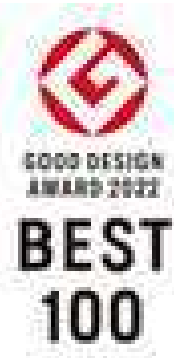
「出会いと学びのアートファーム」を理念とし、市民活動の拠点となる新しいタイプの美術館としての整備・運営が高く評価され、青森県内では唯一の受賞（2022年度）となっています。

<審査委員の評価（抜粋）>

- ・名称は美術館だが、互いに学び、創作のきっかけとなるラーニングを軸に、地方都市の市民活動の拠点となる新しいタイプの施設と言うべきか。
- ・八戸市では十数年かけて文化施設と関連事業を充実させてきたが、その要となるであろう美術館は、今後、市民とともに成長していくことが期待される。



写真 阿野太一



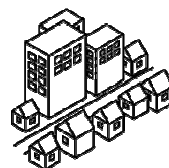
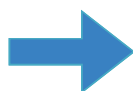
八戸市美術館の可能性



八戸市美術館は、アートを通してみんなで学び、対話し、新しい価値や作品を生み出したり、活動やひと、新たに生み出された価値が美術館の目玉となる、「ひとが能動的に関わる美術館」です



新しく生み出した作品でコレクションを形成するなど、八戸の未来をつくる活動が特徴



地域

学校連携事業 ～美術館との連携～ 旭ヶ丘小学校

令和4年11月30日

八戸市総合教育会議 学校概要説明資料

旭ヶ丘小学校 校長 中奥 尚子

本校の概要 教育目標等

1 本校の概要

昭和40年4月6日 開校（創立57年目）

令和4年度 児童数 339名

学級数 15学級（通常学級12 特別支援学級3）

※ 令和4年11月1日 現在

2 教育目標 「生き生きと 心も体もたくましく」

【学校経営方針】

地域の期待を担う学校として、伝統やよさを継承しつつ、さらなる充実を図るための意欲をもって、学校・保護者・地域が一体となった活力と規律ある、安全・安心・安定した学校づくりを進めていく。その学校づくりの方針として、市教委からの「授業づくり・居場所づくり・絆づくり」をキーワードに、日々の授業の充実を最重点に据え、全ての教育活動を通して、よりよい関係づくり（児童・教職員・保護者）に努めている。

また、そのための柱を次の4項目として、掲げている。

- (1) 意欲的に学ぶ子を育てる授業の充実
- (2) 一人一人が大切にされる教育活動の推進
- (3) 全職員の参画による活気ある学校づくり
- (4) 保護者・地域に開かれた学校づくり

3 令和4年度 学校教育目標

「自分も相手も、大切にできる子どもの育成」

【重点施策】

- (1) 「聴く」「話す」力を高め、授業やさまざまな場面で児童同士・児童と教師がよりよく関わり、基礎基本の力をつける。
- (2) ソーシャルスキル（アンガーマネジメントを含む）教育をとおして多様な考え方があることに気づき、人との関わり方について具体的に学ばせる。
※ 今年度は立教大学大石幸二教授の研究協力校として、「PPR：前向きな言葉がけを促す活動（positive peer reporting）」にも取り組んでいる。
- (3) 運動・睡眠と心身のつながりを考え、めあてをもった運動を実践し、基礎体力を向上させる。

4 子どもたち自身の活動を大切に

- ・日常的な活動として⇒「児童会活動：スマイルプロジェクト、縦割り清掃」
- ・定期的な活動として⇒「つながりを大切に：1年生へ朝の手伝い（6年生）、
雨の日のランドセルふき（高学年）、
なかよし班活動（全校活動）」
- ・行事的な活動として⇒「発達段階に応じた活動：名人に学ぼう（3年生）、
八戸市内自主見学（6年生）など」

5 美術館との連携事業

- ・学校連携プロジェクトに参加して
令和3年 「大きな絵プロジェクト」
令和4年 「思い出を美術館に・・・」

6 美術館とのつながりを大切に

- ・美術館での授業の実践 何ができるか、何をしたいのか
- ・コロナ禍で様々な活動を制限されていた6年生に自分の気持ちを表現できる活動、かけがえのない思い出として心に残る活動をさせてあげたい。
- ・学年の協力と心意気！

7 本日参観していただく授業について（その1）

【対象と授業者】 対 象：6学年 51名
授業者：市村徳子教諭、福田陽奈教諭、
研究主任・ICT担当： 佐々木俊介教諭

【内容とねらい】

・自分たちの小学校6年間の思い出を振り返り、作りたいもののイメージを共有し、思い出やその時の気持ちにあった形や色を考え、思い思いに表現する。

その作成したものを、始めに日常的な生活の場である学校に飾りつけ、鑑賞し合う。次に、非日常の空間である美術館に飾りつけ、鑑賞し合う。

これらの活動をとおして、自分の思いや相手の思いを尊重する態度や心情を養いたい。また、自分の思いを形にすることは正解のない活動でもあるため、多様な価値観、共感性、差異を感じ認め合うなどの豊かな心を育むことができるだろう。

さらに、この貴重な経験は「八戸市美術館」が「自分たちの美術館」として子どもたちにとって親しみを感じるところになり、これからも美術館での活動に自ら参加したり、自分なりの「アート」を創造し、それを楽しんだりできる「アートファーマー」へのきっかけとなると考える。

7 本日参観していただく授業について (その2)

【学習の経緯】

8月 学校でのプロジェクト開始：高学年ブロックでの話し合い

子どもたちへ、どんな目的で、何をどのようにさせたいのか意見交換する。

9月 連携①

八戸市内見学実施：6年生が実際に美術館見学を実施、美術館スタッフの案内で美術館バックヤードやジャイアントルームなどを見学する。

10月 授業の具体的な内容を検討し指導案づくりに入る。

11月 作成開始

10日 目的や内容を説明し思い出のどの場面を表現したいか考える。

連携②

11日、17日 美術館学芸員の田村さんとの授業

22日 学校に飾り鑑賞し合う。

連携③

24日 田村さんとの授業 美術館の様子やどのように飾れるかの相談

連携④

30日 美術館に飾り鑑賞し合う。

【授業の見どころ】

- ・新しい美術館のどこにどのように飾るか、自分で考え行動する。また、自分の思いを表現したいように飾る工夫をしている。
- ・完成したものをchromebookで撮影し、紹介コメント動画を作成する。また、鑑賞した感想をコメントに残すことで互いを認め、多様な考え方を覚えることができる。
- ・互いの作品を味わい、思いを感じ取る。

8 最後に

これまで子どもたちにとって美術館はなじみが少なく、特別な時にでかける場所、展示されている作品をお客さんとして鑑賞するために出かける所であった。しかし今回、その美術館が、自分たちの活動できる場所となるということは、子どもたちにとって、とても衝撃的な出来事であり、今まで経験したことのない貴重な機会となる。また、卒業前のすてきな思い出の1つとして、心の中に大きく残っていくだろう。

そしてこの体験は、新しいコンセプトの、他にはない美術館が八戸市に誕生したことを実感する機会でもあり、「八戸市ってすごい」と、郷土を誇りに思える出来事になる。

このような、学校だけでは実現できなかった貴重な機会をくださった市長及び市教育委員会、そして子どもたちと共に活動し、助言くださり、当日も支えてくださった美術館のスタッフの皆様に心から感謝を申し上げたい。ありがとうございました。